

平成30年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	議会運営委員会			
参加委員	池田総一郎 宮下省二 小林隆利議長	佐藤論征 南波清吾 土屋勝浩副議長	小坂井二郎 池上喜美子	西沢逸郎 成瀬 拓

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市議会は、平成26年に施行された議会基本条例 第11条「政策立案及び政策提言」並びに第12条「議員間の自由な討議」に基づき、政策討論会の実施に向け様々に検討を行っている。このようななか平成26年から政策討論会を実施している静岡県富士市議会の取り組みを今後の参考とすべく視察を実施した。また、事業評価の取り組みについても、併せて視察項目とした。

2 実施概要

実施日時	視察先	静岡県 富士市
平成30年11月14日(水) 午後1時30分～午後3時30分	担当部局	議会事務局
視察事業名	政策討論会の取り組みについて 議会による事業評価について	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <p>富士市は、静岡県東部に位置し、富士山の南麓に広がる人口約25万4千人の都市。気候は温暖で豊富な地下水に恵まれ、古くから製紙産業が盛んで「紙のまち」として成長し、その後、紙パルプの他、化学、電気機械産業などの産業が発達。平成20年11月には隣接する富士川町と合併し、新「富士市」となった。</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>【政策討論会の取り組みについて】</p> <p>議題</p> <p>議題にしようとする案件がある場合は会派代表者(会派)が政策討論会申出書を議長へ提出し、申出書を会派代表者会議に諮り議題を決定する。</p> <p>討論会</p> <p>討論会は議長が招集し、これを主宰する。議題となった事項の説明並びに資料の準備については、提出者(会派)が行う。</p> <p>政策討論会の進め方</p> <p>議長が議事進行を行い、提出者の議題概要説明の後、賛成・反対の立場から意見を述べ、双方の意見を踏まえて討論を行う。</p>	

結果の活用

討論会で意見集約された事項で特に必要と認めるものは、議会として関係機関へ対応を要請する。(平成26年11月6日の政策討論会を受け、田子の浦港土砂浚渫の恒久対策について議員発議による国・静岡県への意見書を全会一致で可決し、提出した例がある)

これまでの実施状況

平成26年11月6日「田子の浦港土砂浚渫の恒久対策について」
平成30年5月14日「立地適正化計画について」

【事業評価について】

平成23年に施行された富士市議会基本条例において、決算審査の際、事業評価を行うため市長等に必要な資料の提出を求めることができることとし、予算編成に活かすため、議会の評価を市長に対し明確に示し、予算に反映することを求めることとした。

<事業評価スケジュール>

- 7月上旬 一般・特別会計決算特別委員会、企業会計決算委員会の各委員会協議会において評価対象事業を選定し、当局に対し、事業評価のための資料請求を行う。
- 8月上旬 当局より資料受理し議員配布。
- 8月下旬 一般・特別会計決算特別委員会、企業会計決算委員会の各委員会協議会において評価対象事業について、資料により説明・質疑。評価シートを会派ごとに作成。
- 9月 決算審査終了後、協議会で議会の評価を決定(議会運営委員会において確定)。
- 10月 9月定例議会最終日、議長より市長に議会の評価を提出。



富士市議会における政策討論会の取り組みについては、会派代表者（会派）が議題案件を提出し、会派代表者会において議題の決定がなされ、概要説明・資料作成については提出会派が行う仕組みとなっている。このような運用方法としているため、議題案件を提出するうえでしっかりとした事前準備がなされ、それを受け実施される討論会は、活発な討論が行われている。このような取り組みは、政策討論会実施に向け検討を進めている上田市議会にとって非常に参考となった。また、事業評価については、評価をAからDの4段階で詳細に評価し、評価が非常に明確なうえ、更に検証まで実施している点は見習うべき点であった。

考 察

(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)



視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成30年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	議会運営委員会			
参加委員	池田総一郎 宮下省二 小林隆利議長	佐藤論征 南波清吾 土屋勝浩副議長	小坂井二郎 池上喜美子	西沢逸郎 成瀬 拓

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市議会では昨年度9月定例会から「一般会計決算特別委員会」を設置し、決算案の審査を一体的に行われるようになった。一方、予算案については従前のおり常任委員会への分割付託が行われている。予算と決算は不可分の関係にあることから「一般会計予算特別委員会」が未設置であるため、この早期設置が望まれており、議長からもこの設置に関して議会運営委員会が諮問を受けているところである。

同様の取り組みを先進的に行っている伊勢市議会からその具体的な運用方法を学ばせていただいた。

2 実施概要

実施日時	視察先	三重県 伊勢市
平成30年11月15日(木) 午前10時～12時	担当部局	議会事務局
視察事業名	分科会形式による予算特別委員会・決算特別委員会	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <p>伊勢市は伊勢平野の南端部に位置する温暖な気候の都市である。伊勢志摩国立公園の玄関口として豊かな自然と美味しい食材に恵まれている。(赤福・伊勢うどん・伊勢えびなど)</p> <p>古くより「お伊勢さん」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、神宮御鎮座のまちとして栄えてきた。</p> <p>人口 126,000人 面積 208.35km² 議員定数 26人</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p><u>予算・決算審査の経緯</u></p> <p>H18年9月～ 会派の人数に応じドント方式を用いて13名からなる特別委員会へ付託</p> <p>H26年9月～ 13名ずつの2グループ体制による特別委員会へ審査付託</p>	

具体的には 26 人の議員を A グループと B グループにそれぞれ 13 人を割り振り、各グループが決算 予算の審査を行い、もう一方のグループが翌年の決算 予算を審査。

(実例)

平成 26 年度の場合

平成 25 年決算 (9 月会) 平成 27 年予算 (3 月会) A グループが審査

平成 27 年度の場合

平成 26 年決算 (9 月会) 平成 28 年予算 (3 月会) B グループが審査

このようにすることにより、各グループが審査した予算に対する決算を同じグループの委員によって審査が可能になる。

H28 年 8 月 ~

条例等検討分科会において、「平成 28 年 9 月決算特別委員会から分科会方式を採用すること」の協議を開始。

H28 年 9 月 ~

常任委員会単位による分科会方式による特別委員会へ審査付託となり、現在に至っている

具体的には議長・監査委員・決算会計年度の監査委員を除く全議員によって決算特別委員会を設置する。

その下に常任委員会を分科会として、総務政策分科会・教育民生分科会・産業建設分科会を設置して審査を行い分科会の審査内容は決算全体会へ報告され委員会採決を行う。 現在に至る

それぞれの方式のメリット・デメリット

【2 グループ方式】

メリット

9 月に決算審査を行った委員が翌年 3 月に予算審査を行うことにより、決算審査を踏まえた予算審査を行うことができる。

デメリット

議員の半数が審査を行えない。

【常任委員会単位の分科会方式】

メリット

議員全員が審査に参加できる。

常任委員会委員が分科会のメンバーとなるため、専門的で効果的な審査が可能になる。

デメリット

自分の常任委員会以外の分科会の審査ができない。

予算・決算特別委員会の審査日程（H30年9月定例会の場合）

9/18 本会議

決算特別委員会の設置・委員会への審査付託

決算特別委員会（全体会）

正副委員長の互選・分科会委員の選任・分科会への議案割り振り

9/21～10/1（6日間） 分科会

産業建設 教育民生 総務政策の順に各分科会にて審査

先に開催された分科会審査が早く終了しても日程調整しない。

10/5 決算特別委員会（全体会）

分科会長報告・質疑・総括質疑・討論・表決

10/10 本会議

委員長報告・質疑、討論、表決

- ・各分科会は2日間開催して、計6日間を充てる。
- ・分科会審査では質疑、自由討議、賛否確認までを行う。
- ・自分が所属しない分科会審査は傍聴するか、会派室にて会議の音声放送をリアルタイムで確認できる。
- ・総括質疑の通告は最後の分科会終了後2時間以内に行う。

予算・決算特別委員会の今後と課題

9月に開催された「議会のありかた調査特別委員会」にて予算・決算審査は当面のところ分科会方式を継続することが決定。

ただし、一部議員から分科会方式は失敗。元の2グループ方式に戻したほうが良いとの声もある。



上田市議会では昨年から決算特別委員会を設置しており、今年の9月定例会では昨年の反省を生かして、全体質疑を会派の人数比率に応じて時間配分を行ったり、通告を全文通告にするなど効率的な審査を行えるように改善を図った。

伊勢市議会における決算予算特別委員会のあり方は上田市議会の採用している分科会方式を採っているが、これまでの経緯の中で、2グループ方式を採用してきた中で、現在もこれからも分科会方式を採用するとお聞きしたことは特筆すべき点である。

上田市議会が決算特別委員会の設置を検討する中で、2グループ方式の採用も土俵に上がったが、専門性を生かした濃密な審査ができるという点において分科会方式が優るという結論に達した経緯がある。

上田市議会における決算特別委員会については、今後も回を重ねる中で改善を図りながらより深い審査、効率的な審査が行えるよう取り組んでいきたい。

予算特別委員会についても、再来年度3月定例会の設置を目指して分科会方式の採用を軸に検討を続けていくことになると思う。

終わりに、今回の視察で先進事例をご教示いただいた三重県伊勢市議会には心からの感謝を申し上げたい。

考 察
(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)

